

日本文学の伝統と現代社会分科会(第 26 期・第 2 回)

議事要旨

出席者:植木朝子、原田範行、吉岡洋、有元伸子、海野圭介、木村勝彦

欠席者:小黒康正、佐藤利行、日比嘉高、日向太郎

日時 令和 6 年 10 月 18 日(金) 13 時~15 時 10 分

場所 オンライン

記録 海野圭介

1 委員からの発表(5 人)

分科会の設置目的と自身の専門分野をからめたプレゼンテーション
社会への発信方法についての提案

1-1.植木朝子「日本文学の伝統と現代社会」(報告)

1-2. 原田範行「古典をめぐる秘められた東西交流—『ガリヴァー旅行記』の場合—」(報告)

1-3. 吉岡洋(報告)

1-4. 有元伸子「古典から近現代へ、アダプテーションの可能性~三島由紀夫「弱法師」(『近代能楽集』)を例に~」(報告)

1-5. 海野圭介「古典×デジタルの展開と現代社会」(報告)

2 意見交換

主に、分科会の成果の発信について意見交換を行った。主な意見は下記の通り。

- ・若い世代や一般国民からの意見を吸収するようなボトムアップ型シンポジウムの実施
- ・会員が関わっている活動と合同でのイベントの実施
- ・シンポジウムの成果の書籍化
- ・創作者・伝統芸能継承者やアートとのコラボレーションの可能性

3 その他

第3回は12月開催の予定で調整することとした。